

# 平成29年度 学校自己評価システムシート ( 埼玉県立春日部女子高等学校 )

目指す学校像	伝統ある女子の進学校として、高い志を持ち、夢をあきらめない生徒の育成を目指す
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>意欲的な学習態度及び学習習慣を身に付けた生徒の育成</li> <li>文武両道を目指し、何事にも全力投球する生徒の育成</li> <li>チャレンジ精神を持ち自らの目標を達成出来る生徒の育成</li> <li>礼儀を基本に高雅な品格と思いやりの心を持った生徒の育成</li> <li>開かれた学校づくりを進め、地域社会及び国際社会に貢献する生徒の育成</li> </ol>
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	13名

学校自己評価						
年度目標				29年度評価(3月22日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	<b>【現状】</b> 学習面については、放課後等に活用できる自習室が整備されるなど、自学自習に取り組む環境が整備されている一方で、授業に臨む態度はまだ受け身である。 <b>【課題】</b> 自学自習の習慣づくりに取り組み、日常の学習量の増加を図る。	①予習、復習を中心とした学習習慣を確立させる。	①自学自習の動機づけとなる学年主導の取組を行う。	①授業以外の学習時間が増加したか。	①授業時間以外の学習時間について、家庭学習が平日75分(昨年比10分増)、休日120分(昨年度比20分増)となった。	A
		②授業改善に取り組む。	②授業アンケートの実施と学力向上に向けた教員研修会を実施する。	②生徒による授業評価をもとに、効果的な授業改善ができたか。	②各学年とも授業が分かること答えた生徒の割合が増加した。	A
2	<b>【現状】</b> 勉強に励みながら、部活動や学校行事に取り組んでいる生徒が多い。 <b>【課題】</b> 学習面と部活動、学校行事との両立を図る。	①学習、部活動、学校行事の全てに全力投球させる。	①部活動や学校行事を計画的に運営し、生徒が全力で取り組める環境を整える。	①-1 部活動の加入率、継続率を高い水準で維持できたか。 ①-2 午後7時完全下校が守れたか。	①-1 部活動は、1学年94%、2学年84%と高い加入率と継続率であった。 ①-2 午後7時完全下校が守れた。 ②学習手帳の活用に加え、始業前の朝学習や定期考査前の放課後学習会を行い学習量を増やした。	A
			②隙間時間を有効に活用させる。	②隙間時間を有効的に活用し、学習量が増えたか。		
3	<b>【現状】</b> 大学進学等について、一般受験でチャレンジする生徒が増加している。 <b>【課題】</b> 安易な推薦入試に頼らず、一般受験にチャレンジする生徒の更なる増加を図る。	①具体的な進路目標を持たせる取組を充実する。	①生徒の進路希望を的確に把握し、進路行事の充実を図る。	①生徒アンケートや面談を通して、生徒の進路希望を把握し、的確な対応ができたか。	①面談や集会を通して高い進路意識を醸成した結果、センター試験を283名が受験した。	A
		②大学の一般受験に対応した取組を実践する。	②進学補習や進学模試に積極的に参加させる。	②3年生の一般受験率が70%を超えたか。	②一般受験率が70%を超えた。	A
4	<b>【現状】</b> 良好な人間関係を築こうとする生徒が多い一方、礼儀の基本である挨拶が出来ない生徒が目立つ。 <b>【課題】</b> 挨拶指導の充実を図る。	①挨拶を徹底する指導を行う。	①学校生活のあらゆる場面を通して、挨拶の指導に取り組む。	①挨拶のできる生徒が増えたか。	①風紀委員会を活用した取組を行った結果、挨拶が出来る生徒が増えつつある。	A
5	<b>【現状】</b> 本校の取組について、ホームページや学校説明会、土曜公開授業等を通して、積極的に発信している。 <b>【課題】</b> 生徒の外向きの意識を醸成し、地域や国際社会で活躍する意識を育むため、開かれた学校づくりを積極的に進める。	①ホームページを積極的に活用する。	①情報が伝わりやすいように、ホームページのデザインを工夫する。	①ホームページのアクセス数が増加したか。	①ホームページのアクセス数は、月平均5,000件と昨年並みであった。	B
		②生徒募集の取組を工夫改善する。	②生徒募集に関する行事に、在校生やPTAの積極的な参加を図る。	②第1回目の中学生の進路希望調査が、1.0倍を超えたか。	②1回目の希望調査は、0.95倍であったが、2回目では、1.06倍と、1.0倍を超えた。	A
		③国際教育の充実を図る。	③海外研修、外部講師、留学生の受け入れ等、国際教育の取組を積極的に発信する。	③外国語科の入試倍率が、2.0倍を超えたか。	③入試倍率は、1.8倍であった。2倍には届かなかったが、昨年より伸ばすことができた。	A

学校関係者評価	
実施日	平成30年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
学習の記録が付けられる学習手帳の活用は、学習時間を増やすことにつながっている。	
授業は、生徒の理解を確認しながら進められており、質問もしやすく、アクティブラーニングの試みもされている。これらが授業評価の向上につながっている。	
部活動中に、膝を怪我する生徒が多い。安全振興会によると、年間4,400件の事故報告がある。そこで、運動部を指導するうえで、健康管理や怪我の防止に取り組んでほしい。	
生徒の持っている大学受験に関する情報量が、個人によって差があるので、具体的に情報を伝えてほしい。	
一般受験にチャレンジする一方、受験科目が少ない方、楽な方に流れる傾向がある。	
人間関係は、挨拶が基本。小学校の「旗振り」をしているときに、高校生から「ご苦労様」と声をかけてもらえるようになった。トイレは、以前に比べてきれいだった。登校中の歩きスマホやイヤホンを両耳に入れている生徒がおり、危険である。自転車の安全運転指導も重要である。	
HPの構成に工夫が見られる。	
高校入試時点で、受験校をどのように選んだかが、3年後の大学受験にも影響してくる。	
2倍の入試倍率を示す高校は、中学生にとっては大変人気のある学校である。	